



二十六聖人

令和4年1月号

(令和3年12月26日発行)

教会だより

2022. 1 No. 343

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296
<http://www.futamatagawa-cc.com/>
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

いつも若々しい慈母である聖なる教会となるために

時間の流れが速すぎて、来日してからもう満五年となり、また、二俣川教会に赴任してからもう、五年目の年を迎えています。「時間は年を取ればとるほど、どんどん早くなるものだ」という言葉は、子供の時、大人たちから度々聞きましたけれども、この頃、その言葉は他人のことではないことを実感しています。この場で、わざわざ自分の契約期間については言いたくないですが、とにかく、残っている期間も神様の導きに任せ、また、信者の皆さんに支えられながらいきたいと思えます。どうぞ、これからも宜しくお願い致します。

さて、去年の待降節第1主日には、「教会学校と青年たちと共に捧げるミサ」の中で、九名の子供たちの七五三のお祝いが行われ、神様と多くの信者さんたちの祝福の中で、楽しくて素敵な時間を送りました。そして、そのミサが終わってからは、みんながクリスマスツリーを飾り、聖堂は子供たちのにぎやかで元気なエネルギーでいっぱいとなりました。その様子を眺めながら、わたしもとても幸せな気持ちになりましたが、特に、クリスマスツリーの一番上に星をつけたある中学生の姿が心に残りました。

実は、2017年を除いて、わたしはずっと二俣川教会でクリスマスを過ごしてきて、去年のクリスマスが五回目でした。というのは、五年の年月が流れたということでしょう。面白いことに、そのクリスマスツリーは間違いなく、毎年同じ場所に置かれ、また、ほぼ同じ形で飾られました。場所や形が変わったら大変のように見えるほど、そのツリーからは独特な厳しさが感じられました。それもカトリック教会の厳しさかも…。

しかし、去年のツリーは若々しく見えました。それは、そのツリーの頂に星を付けたあの中学生の姿から感じたことです。来日したばかりの時、彼はまだ小さいいたずらっ子のような様子でした。そんな彼でしたが、去年は、まだまだ幼い子供たちがツリーの低い所にいろいろな飾りをつけている間、丸椅子に上って金色の大きな星をツリーの頂につけたのです。彼はそれほど大きくなったということでしょう。何人かの小さい子供たちはそんな彼をうらやましく見ていました。彼は自分より小さな子供たちのためにそうやってくれたに違いありません。それは何と素晴らしくて新しいしるしでしょう。彼はもはや、教会学校の生徒ではなく、二俣川教会の一人となっているのです。きっとその昔から、何人かの子供たちが年ごとに梯子や椅子に上ってその星を付けたはずで、その子供たちが大人となり、毎年新しい子がそこに上って同じことをやってきたでしょう。その度、教会は段々若くなってきたわけですが、そう考えたら、その梯子や椅子は若々しい教会へ至る梯子、また、椅子のような気がします。そして、その梯子や椅子を通して多くの子供たちが教会を支える力を育てていくのです。

昔から教会は、「慈母である聖なる教会」と言われています。それは、教会とは慈しみ深い母であり、聖なるものであるという意味です。母としての教会は世の終わりの日まで、洗礼を

通して神様の新しい子供たちを産み続け、また、その子供たちが聖なる人となるように育ていくものとならなければなりません。教会はその聖なる出産と養育の力を失ってはならない共同体で、その力を失ったら、教会はもはや「若々しくて元気なお母さん」ではないでしょう。大変なのは、ツリーをどこに置いて、どう飾るかではなく、また、教会の厳しさをどう守るかということでもありません。もっと大変なのは、教会がその力を失うことなのです。その力を失わないためには、「教会の奉仕や役割」という様々な梯子や椅子を独占せず、新しい人や若い人にその梯子や椅子が許されるようにすべきではないかと思います。それこそが「新しい永遠の契約の民」としての教会にふさわしい姿でしょう。また、それこそが「シノドス、つまり共に歩む教会の道」でもあると思います。

カトリック二俣川教会も、もう五十六歳の共同体ですが、いつも若々しい慈母としての力が満ち溢れる共同体となるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



12月教会委員会報告

【司祭】

2023年に行われる、シノドスのテーマは「ともに歩む教会のため--交わり、参加、そして宣教」です。最初に、交わりがあるかと言う事を考える必要があります。交わりがあつてこそ、教会活動・宣教が最も有効に働くようになるという事です。その意味から、各団体・委員会の中で私達は本当に心を開いて交わっているかを、分かち合ってください。

私達が過ごしている待降節は、16日までの第一部の期間と17日から25日までの第二部の期間に分けられます。第一部の期間は旧約の言葉と福音の終末的な言葉を聞き黙想します。17日からは、本格的にイエス様を待ち黙想する事になります。しかし、私達は、クリスマスの賑やかな雰囲気に関わられていないかを考えなければなりません。イエス様を切に待つという気持ちにならなければなりません。教会が毎年クリスマスを祝うのは、いつか必ず来られるイエス様の再臨を待ち望む準備をする期間でもあります。希望と愛を持ってイエス様を待つ準備をする期間です。

【今月の検討項目】

1. 2022年年間計画表に関して
 - ・2022年年間計画表は、コロナ禍で暫定版になりますので配布は行いません。但し、信徒の皆様へは、「今週のお知らせ」と「二十六聖人」にて次月予定をお知らせ致します。
 - ・「典礼歴と祈願日表」は信徒の皆様へ配布致します。
2. 教会基本方針と教会委員改選に関して
 - ・教会基本方針は2021年度から変更せず「シノドス」に対する活動方針を追記致します。
 - ・2022年教会委員に関しては、2021年の委員を継続とします。
 - *2022年も引き続きコロナ禍の対応が求められるので、教会委員は継続する事が望ましい為です。
3. シノドス（世界代表司教会議）の取り組み方
テーマ：「ともに歩む教会のため--交わり、参加、そして宣教」
 - ・横浜教区より何等かの指針が出てから、具体的取組みを検討致します。
 - ・「シノドス」について皆様の理解を深める為の具体的方法を常任委員会で検討致します。
4. 教会HP刷新に関して
 - ・HPの方向性を検討しました。実現に向けての作業を進めて参ります。

5. 教会内物品販売に関して

- ・コロナ感染症対応の、ロビーでの検温・名簿作成・手指消毒等が必要なくなるまでは、物品販売の自粛を継続します。

6. 例年実施している福祉団体への年末寄付は7団体へ総額¥620,000.-と決定されました。

- * 寄付先詳細は、別途お知らせ致します。

【その他検討確認事項】

『事務所』

- ・年末年始計画：12月29日（水）午後～1月5日まで事務所はお休みです。
- ・12月24日（金）：19時ミサがありますので、20時まで事務所を開けます。

『各委員会報告』

（典礼委員会）

- ・12月18日（土）より各ミサで聖体奉仕者1名が参加します。

（教会学校）

- ・11月28日（日）：「七五三のお祝いミサ14:00～」で9名の子供たちが祝福していただきました。また、クリスマスツリーの飾り付けを行いました。
- ・教会学校クリスマス会：12月19日（日）14:00～15:30
- ・「青年と教会学校と共に捧げるミサ」：12月26日（日）は「聖家族のミサ」として参加を募ります。

（キリスト教講座）

- ・入門式：11月28日（日）11時のミサにて3名の入門式が行われました。
- ・入門講座：木曜日（10:00～11:30）に新たに開講しました。
- ・入門講座ヘルパー養成講座：12月11日（土）より開始されます。

（建物管理委員会）

- ・馬小屋とツリー：11月14日（日）馬小屋設置／11月21日（日）ツリー出し／11月28日（日）馬小屋飾り付け（今後の予定）2022年1月9日（日）馬小屋飾り付け撤去・ツリー撤去／1月16日（日）馬小屋撤去

（共同墓地委員会）

- ・四教会合同委員会：2022年3月20日（日）15:00～（二俣川教会に於いて 参加予定人数：約10名）議題は2022年春の墓参予定、2022年11月追悼ミサ概要。

（ヨゼフ会）

- ・馬小屋設置及び撤去作業応援

（マリア会）

- ・ステラマリス帽子を編む会の活動として、船員さんへのプレゼントの手編み帽子250個をセットして、末吉町教会内のステラマリス事務局へ11月19日（金）に届けました。皆様のご協力に感謝致します。

（青年会）

- ・神学院訪問：11月23日（火：祝）の神学院訪問は延期し、来春に計画致します。
- ・ステンドグラス：青年主導で中高生も参加し、祭壇の窓ガラスをステンドグラス風に飾り付けしました。
- ・クリスマスカード：中高生・リーダー会が参加しクリスマス企画としてカードを作成中。
- ・新成人のミサ：2022年1月30日（日）14:00～（対象者：2021年/22年に新成人となられた方々）

（インターファミリーグループ）

- ・集い：12月12日（日）教会集会室を利用して集います。（呼びかけ：久しぶりに顔を合わせましょう。）

以上

教会学校だより

11月28日の教会学校と青年会のミサの中で、七五三のお祝いをいたしました。去年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため七五三のお祝いが出来ませんでした。今年も昨年お祝いするはずだった子供達と一緒に、3歳から8歳の9名の子供のお祝いをする事が出来ました。ご両親や兄弟姉妹おじい様おばあ様と一緒にごミサに与る可愛らしい姿や、ときおり響く小さな子供や赤ちゃんの声、神父様の前に並んで祝福をいただく時の少し緊張した横顔や嬉しそうなお顔に、本当に子供は教会の宝であり喜びであると、改めて思いました。

(写真1枚)

この子供たちが神様の子供として成長して行くことが出来ますよう、ご一緒に祈りつつ愛のまなざしでみまもっていただけますと幸いです。来年こそはこの喜びを皆さんと分かち合えることが出来ますように。

教会学校リーダー マリア M. Y.



マリア会通信 No. 112

(写真1)

主のご降誕、おめでとうございます。厳しい寒さが続いて居ますが、皆様お元気で過ごしてはいますか？マリア会は、今年も活動休止の一年でしたが、「ステラ・マリス帽子を編む会」ではおうち時間を利用した活動で、250枚もの毛糸の帽子を編みました。帽子を編む会で用意した毛糸セットを持ち帰り、編み終わったら、ロビーのステラ・マリスの箱に入れて、また毛糸を持ち帰るといった活動を繰り返しました。途中、セットの中に入れる毛糸が無くなり、ご寄付のお願いも致しました。神父様がミサの時にお声かけ下さったり、「今週のお知らせ」に掲載して頂いた結果、毛糸が集まりました。プレゼントの中に入れる歯ブラシ、タオル、石鹸もご寄付いただき、お陰様で250個のプレゼントをステラ・マリス横浜事務所にお届けできました。編んで下さった皆様、毛糸や歯ブラシ、石鹸、タオルなどをご寄付くださった皆様、どうもありがとうございました。今後も活動は続けます。毛糸のご寄付は、引き続きお願い致します。ご使用にならない手編みのセーターも、ご寄付頂ければ、解いて使います。毛糸の帽子を編む活動はどなたでも参加できます。セットの毛糸の他に編み図も用意されていますので、執務室横の棚の箱からセットをお持ち下さい。

(写真2)

最後になりましたが、お元気で恵み豊かな時をお過ごし下さい。

マリア会 K. M.

【編集後記】

主のご降誕おめでとうございます。コロナ禍のルールはすっかり定着し、来年も継続されますが、想いさえあればマスク越しでも気持ちは充分伝わるのだなあ、と思います。ごミサの後、ほほえみ合い温かい気持ちを受け取って帰ります。マスク越しの笑顔、持ち帰って広げていきたいですね。2022年も教会だより「二十六聖人」をよろしく願いいたします。(A.K. 記)